

富士通株式会社 購買本部

富士通購買本部が選択! 最新EDI標準に準拠したクラウド型Web-EDIシステム
「ProcureMART資材調達支援サービス」で運用コストを約3割削減

富士通の購買本部は、富士通が生産または供給する製品やサービス・ソリューションの直接材や間接材を集中調達している部門です。その取引先は国内・海外をあわせて2,700社以上あります。同部門は、2005年より、独自に開発したWeb-EDIシステムを運用していましたが、システム老朽化や国内向け・海外向けシステムを集約するため、クラウド型の「ProcureMART 資材調達支援サービス」を導入。システム運用関連のコストを約3割削減するとともに、最新の業界標準への対応も行いました。

課題

- オンプレミスのWeb-EDIシステムの老朽
- 国内・海外で別々のシステム
- システムの運用・保守やサポートにかかる業務負担とコスト
- 変化する業界EDI標準への対応

効果

- 最新のクラウド基盤 FUJITSU Cloud Service S5 を活用した Web-EDI システムのクラウド化を実現して将来の拡張性も確保
- 国内・海外のシステムを1本化
- 運用コストを約3割削減(3年間で約1億円の運用コスト削減)
- 業界の最新EDI標準への対応

ソリューション

FUJITSU 製造業ソリューション ProcureMART 資材調達支援サービス

オンプレミスのWeb購買システムの老朽化にともなうシステム更新が課題に

富士通の購買本部は、富士通が生産または供給する製品やサービス・ソリューションの直接材や間接材を集中調達するさまざまな製品・ソリューションの構成部品・資材、間接材などをまとめて購入している部門です。

同本部では、取引先とのやりとりで2系統のシステムを利用していました。1つはファイルを利用したVAN型と呼ばれるシステムで、これは富士通が商用販売している「ProcureMART 資

材調達支援サービス」の機能をそのまま活用していました。一方、Webを使ったWeb-EDIシステムは、購買本部の業務に合わせて独自開発し、2005年から運用していました。ところが、時間の経過とともに、この独自開発したWeb-EDIシステムに、さまざまな課題が生じてきました。購買本部調達戦略室 e-Procurement 推進部長 竹山裕氏は、次のように説明します。

「1つは老朽化です。ハードウェアの保守切れやOSのサポート切れが問題となり、システムを新たに構築し直すのか、別の手段を考えるとかという選択を迫られていました。また、国内と海

外でシステムが異なり、業界の最新標準に準拠できていないなど、解決すべき課題もありました」(竹山氏)

そこで購買本部では、2014年4月、商用ProcureMARTを開発・運用していた部門に相談します。その結果、「資産を持ちたくない」「運用をスリム化したい」といった同部門の要望に応えられるシステムとして、Web-EDI部分についても商用版「ProcureMART 資材調達支援サービス」が選択されました。



最新の業界標準に対応した商用版 Web-EDI「ProcureMART資材調達支援サービス」を選定

「ProcureMART 資材調達支援サービス」は、2000年6月にリリースされたSaaS型のシステムです。リリース以来、改良を重ね、現在ではバイヤー150社、サプライヤー2万社以上の導入実績を持ち、特に国内の電機業界で広く使われています。新しいWeb-EDIシステムとして「ProcureMART 資材調達支援サービス」を選定した理由について、竹山氏は次のように説明します。

「国内と海外のシステムを1本化できて、最新のEDI標準であるJEITA/ECALGAに対応している点を高く評価しました。また、弊社は特に海外取引先とメールによるEDIが多かったので、注文書のメール配信に対応できる点も選択の理由です。さらに、実績も十分で、BCM対策の強化にもつながると判断しました」(竹山氏)

一方、「ProcureMART 資材調達支援サービス」の開発部門にとっても、富士通購買本部にシステムを提供することは、現行の購買EDIの最新

ノウハウをシステムに取り込み、「ProcureMART 資材調達支援サービス」をさらに進化させる絶好の機会でした。

こうして、2014年4月にプロジェクトが発足。約1年をかけて、富士通のクラウド基盤S5のインフラを活用した新しい「ProcureMART 資材調達支援サービス」の開発が行われ、2015年5月、無事、本稼働を迎えることができました。

3年間で1億円の運用コスト+将来コストを削減し、最新の業界標準にも対応

新しい「ProcureMART 資材調達支援サービス」は、さまざまな課題解決に貢献しました。まず、海外と国内のWeb-EDIシステムを統一することで、運用負荷が大幅に軽減されました。また、システム操作に関する問い合わせに対して、ProcureMARTのサポートセンターを活用することで、サポート業務からも解放されました。そのコスト削減効果について、竹山氏は次のように説明します。

「データセンターや運用のコストも含め、現行運用コストの約3割、金額にすると、3年間で約1億円のコスト削減を見込んでいます。また、クラウド化により、今後の減価償却費や老朽化対策などの将来コストを削減できることも大きい導入効果です」(竹山氏)

最新の業界EDI標準であるJEITA/ECALGAに対応したことにより、今後はサプライヤー側にも導入効果が期待されています。EDIデータの標準化により、サプライヤーはバイヤーごとに

異なる帳票を利用する必要がなくなり、データをそのまま基幹システムに取り込んで活用することも可能になるからです。

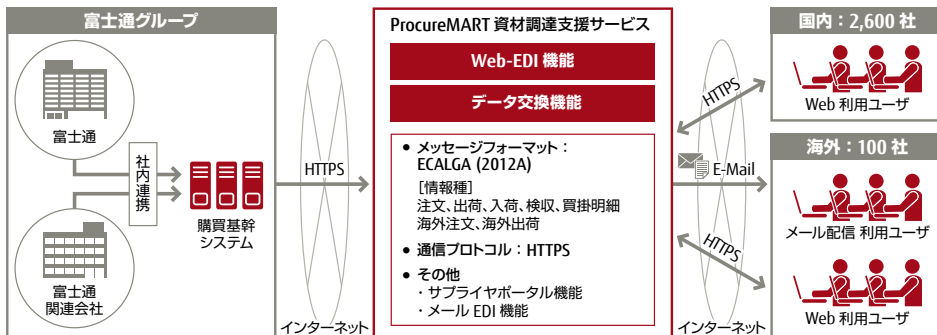
なお、JEITA/ECALGAは、JEITA(一般社団法人電子情報技術産業協会)が標準化・実用化している次世代EC標準の総称です。「ProcureMART 資材調達支援サービス」は、このJEITA/ECALGAに対応したことで、EDI分野における最新のニーズに対応可能となります。

プラットフォーム刷新で拡張性を高めた「新ProcureMART資材調達支援サービス」としてリリース

今回、購買本部に導入されたシステムは、「ProcureMART 資材調達支援サービス」の最新バージョンとして、一般のお客さまにも提供されます。その特徴を、開発を担当したサービスマネジメント本部クラウドインテグレーション統括部EDIサービス部部長藤原真一氏は、次のように説明します。

「最新の業界標準に対応した資材調達のWeb-EDIであり、弊社の購買本部で実際に導入・活用され、その業務ノウハウが反映されたシステムであることが最大の特徴です。マルチ言語・通貨対応、グローバルでのサポートに加え、お客様自身で独自の項目を追加・変更したり、項目の表示/非表示を設定したりして、画面を使いやすくカスタマイズできるセルフカスタマイズ機能も搭載しています。また、富士通のクラウド基盤S5上で構築したことにより、高い拡張性を実現できたことも大きい特徴となっています」(藤原氏)

自社に必要なシステムを自ら開発し、それをお客様にも使っていただけるようにブラッシュアップして、ご提供することは、富士通におけるシステム開発の基本的な考え方です。新しい「ProcureMART 資材調達支援サービス」も、まさにこの考え方にもとづいて生み出された次世代のWeb-EDIシステムといえるでしょう。



(注) 本事例中に記載の肩書きや数値、固有名詞等は取材当時のものです。(取材日: 2015年7月) また、改善などのため予告なしに変更する場合がありますのでご了承ください。

2015年10月

製品・サービスについてのお問い合わせは

富士通コンタクトライン (総合窓口) 0120-933-200
受付時間 9:00~17:30 (土・日・祝日・年末年始を除く)

富士通株式会社 〒105-7123 東京都港区東新橋 1-5-2 汐留シティセンター